

# 内頸静脈グラフトを用いた中肝静脈なし右葉グラフト肝静脈再建法に関する検討

九州大学病院、肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科において2004年1月1日から2015年7月31日までに右葉グラフトを用いた生体肝移植を受けた方を対象

**【はじめに】**生体肝移植において、中肝静脈なし右葉グラフトにはしばしば右肝静脈以外に中肝静脈の枝、下右肝静脈など複数の静脈口が存在することがあります。これらの静脈再建が不良であるとグラフト肝にうっ血域が生じ、グラフト機能不全をきたすことがあるため確実な再建が必要とされます。中肝静脈なし右葉グラフトにおける静脈再建にはこれまでに、摘出肝内の門脈枝、側副血管、凍結保存血管、人工血管などの有効性が報告されています。私たちはより確実な再建を目的として、レシピエント内頸静脈を用いた再建を積極的に行ってきました。今回の研究の目的は内頸静脈を用いた中肝静脈なし右葉グラフト肝静脈再建の有効性と安全性を検証することです。

**【研究内容】**2004年1月1日から2015年7月31日までに九州大学病院で右葉グラフトを用いた生体肝移植ドナー手術を受けた174人を対象とし、肝移植情報(右葉グラフトの肝静脈口の数、肝静脈再建に用いた血管グラフトの種類、レシピエントの術前術中情報[年齢、性別、ドナー年齢、ドナー性別、グラフト標準肝容積比、術前肝硬変スコア、手術時間、出血量、冷虚血時間、温虚血時間]、術後CTでの再建肝静脈開存度、術後経過)を診療録より取得します。用いる血管グラフトの種類による肝静脈開存度を比較します。また術後経過(敗血症の発生頻度、グラフト生存率)を比較します。

**【患者さんの個人情報の管理について】**個人を特定できる情報については匿名化し、厳重な管理を行います。本研究の実施過程およびその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡ください。

**【研究期間】**研究を行う期間は承認日から2016年3月31日です。

**【医学上の貢献】**この研究により生体肝移植ドナー手術がより安全性の高いものになることが期待されます。

## **【研究機関の長】**

九州大学病院長 石橋 達朗

## **【研究計画書および研究の方法に関する資料について】**

研究計画書および研究の方法に関する資料を入手または閲覧することができます。ご希望される場合は、下記連絡先までご連絡ください。

## **【個人情報の開示について】**

本人等からの開示の求めに応じて、保有する個人情報のうちその本人に関するものについてのみ開示を行います。

## **【研究機関・組織】**

九州大学大学院 医学研究院 外科集学的治療学講座

准教授 内山秀昭 (担当者)

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院 消化器・総合外科医局

Tel; 092-642-5466

内山 秀昭